

番号	科	名称	天気	21年度観察数												観察月数	観察数合計	
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
				20	12	9	14	11	8	15	10							
1	カモ	カルガモ		2												1	2	
2	ハト	キンハト		5	2	2	2	4		1	2					7	18	
3	サギ	アオサギ									1					1	1	
4	サギ	ダイサギ									1					1	1	
5	カウコウ	ツツリ														0	0	
6	トビ	トビ	○													0	0	
7	タカ	ツミ	VU													0	0	
8	タカ	ハイタカ	VU													0	0	
9	キツツキ	コゲラ		2	2	5	1			1	2					6	13	
10	キツツキ	アカゲラ	○													0	0	
11	キツツキ	アオゲラ	○	1	2	1		1	1	1						6	7	
12	ハヤブサ	チョウゲンボウ	VU													0	0	
13	ハヤブサ	ハヤブサ	VU													0	0	
14	モズ	モズ	VU							1						1	1	
15	カラス	カケス														0	0	
16	カラス	オナガ	NT	1	3				6							3	10	
17	カラス	ハシボソガラス		3	3	2	2	2	2	3	4					8	21	
18	カラス	ハシブトガラス		6	8	10	7	9	17	5	6					8	68	
19	シジュウカラ	ヤマカラ	○													0	0	
20	シジュウカラ	シジュウカラ		12	10	36	9			9	12					6	88	
21	ツバメ	ツバメ				2	2									2	4	
22	ツバメ	イワツバメ	NT													0	0	
23	ヒヨドリ	ヒヨドリ		22	11	22	14	3		32	34					7	138	
24	ウグイス	ウグイス	○	4	5	6	2				4					5	21	
25	エナガ	エナガ	NT								3					1	3	
26	メジロ	メジロ				5	6		1	3	2					5	17	
27	ムクドリ	ムクドリ			12	16					15					3	43	
28	ヒタキ	シロハラ		2												1	2	
29	ヒタキ	ツグミ														0	0	
30	ヒタキ	ルリヒタキ														0	0	
31	ヒタキ	ジョウビタキ									1					1	1	
32	ヒタキ	コサビヒタキ	VU													0	0	
33	スズメ	スズメ				2										1	2	
34	セキレイ	ハクセキレイ														0	0	
35	アトリ	アトリ														0	0	
36	アトリ	カワラヒワ														0	0	
37	アトリ	シメ														0	0	
38	アトリ	イカル	NT													0	0	
39	ホオジロ	アオジ														0	0	
観察種数 月 / 年				10	11	12	9	5	5	11	11	0	0	0	0	0	20	



シロハラ



ウグイス



ムクドリ



下草を刈られた林



メジロ幼鳥



ヒヨドリ幼鳥



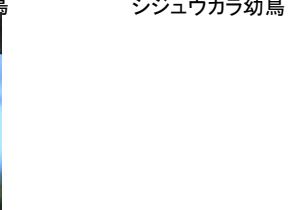
メジロ幼鳥



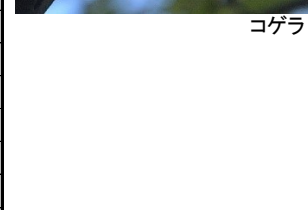
シジュウカラ幼鳥



メジロ幼鳥



メジロ



メジロ

月	21年度 コメント
4	武蔵台公園正面に来て、ササなどの下草が無く驚愕。ナラ枯れ樹木の伐採が進み、明るい林内となった。樹上で囀るウグイスを含め4羽確認しホッとした。冬鳥のシロハラ2羽を確認。
5	近隣のプールに水が張られたのか、カルガモが上空を行き来した。ササの刈られた所にムクドリが集まって餌場になっていた。樹冠や繁った樹上、藪の中から声がしきりに聞こえ、姿は見にくかった。
6	シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、コゲラの幼鳥を確認。羽の色が淡く、ボサボサ感がある。この時期、巣立ちをしたばかりのようで、警戒心が薄く、採餌をしていた。巣の中にハシブトガラスの親鳥が見え、巣立ちはまだのようだった。
7	雨でもウグイスの声は良く響き、シジュウカラは枝先を忙しそうに動き回っていた。上空をツバメが飛び交い、雨を味方につけているようだ。アズマネザサが伸び始めていた。ムクドリが1羽も確認出来なかった。
8	33.5℃、快晴の真夏日。活動している個体は目視および鳴声で殆ど認められず、カラスの鳴く声および飛翔が目立った。観察種数は5種と今年度で最低の中、薄暗く背の高い木立の中でアオゲラ(成オス)を認めた。
9	観察種数が5種と少ない中、オナガとハシブトガラスの集団を確認。オナガの集団の中には、幼鳥が混じていた。ハシブトガラスは、まだ熟していないミズキの身を盛んに食べていた。
10	小鳥の混群には出会えなかったが、ヒヨドリ、ムクドリの小集団での飛翔を観察。今シーズン初のモズの高鳴きや、アオゲラの鳴声を確認。アオゲラが掘ったと思われる未完成の木の穴を確認。木の下に木くずを確認。来月の観察時に再確認予定。
11	雨明けの小春日和。今年度最多数のヒヨドリを見る。混群は無し。ウグイス(地鳴き)を広範に認めた。地上40cmの叢にガビチョウの飛翔、頭部大の穴を突くコゲラ、雲一つない上空にアオサギ及びダイサギを目撃。10月に確認した未完の洞には進捗が無く、放棄したものと思われる。
12	
1	
2	
3	

注1: 表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察種数。

注2: 名称欄記号は、2020年度東京都レッドデータ、北多摩の 카테고리 表示。

外来種

観察月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カララバト													
カビチヨウ		2	2	2				2	4				
ソウシチヨウ													
ホンセイインコ			2										

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストのカテゴリー表示を行った。カテゴリー表示の条件を以下に示す。

2020年版 東京都レッドリスト

対象地域 北多摩の評価による

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅危惧 I A類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 I B類	EN	I A類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧 II 類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」としての上位ランクに移行する要素を有するもの
ランク外	○	前回2010年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種
非分布	・	主要な生息地でないという理由から対象外とされた種